

平成26年4月23日

平成26年度海外留学支援制度に採択されました

【教育機能】

学生の派遣及び受入れを支援する独立行政法人日本学生支援機構による海外留学支援制度について、平成26年度広島大学からは、次のとおり採択されました。

双方向協定型（※1）			
	申請件数	採択件数	奨学金支援 人数
派遣プログラム	3	2	29
受入プログラム			31

短期研修・研究型（※2）			
	申請件数	採択件数	奨学金支援 人数
派遣プログラム	15	13	296
受入プログラム	12	4	44

（※1）双方向協定型…学生交流協定に基づく1学期以上1年以内の交換留学

（※2）短期研修・研究型…交流協定大学等との連携により作成された8日間以上プログラム

本支援制度により、海外へ派遣する学生には派遣地域に応じて月額6万円～8万円、本学で受入れる学生には月額8万円の奨学金が支給されることとなります。

## 【お問い合わせ先】

教育・国際室国際交流グループ  
 TEL:082-424-6182/4609 FAX:082-424-4545

平成26年度 海外留学支援制度(短期受入れ・短期派遣)採択一覧

No.	区分		プログラム名	対象国・地域	支援人数	
(1)	双方向	派遣	Exchange Program for Diverse Cultural Studies (日本と世界の文化相互理解のための交換留学)	アメリカ合衆国他 22ヶ国	20	人
		受入			24	人
(2)	派遣		START:オセアニア	オーストラリア ニュージーランド	48	人
(3)	派遣		START:台湾	台湾	24	人
(4)	派遣		START:東南アジア	インドネシア ベトナム	38	人
(5)	派遣		START:アメリカ	アメリカ合衆国	19	人
(6)	派遣		国際協力特定プログラム	フィリピン	12	人
(7)	派遣		アジアにおける人権発展学習のための双方向プログラム	台湾	24	人
(8)	派遣		Dual-Linguistic Educationと連動したグローバル人材育成ネットワークプログラム	インドネシア他 7ヶ国	20	人
(9)	派遣		バイオデンタル教育研究国際ネットワークプログラム	イギリス	2	人
(10)	派遣		国際技術者育成のための日台ものづくり共同学習プログラム	台湾	12	人
(11)	派遣		国境を超えるエンジニア(ECBO)育成プログラム	アメリカ合衆国他 7ヶ国	12	人
(12)	派遣		学部学生を対象にした海外実習(生物資源の持続的利用に関する研修)	フィリピン	12	人
(13)	受入		法学的アプローチによるヒロシマ・イニシアティブ -地球市民と平和-	ブラジル	15	人
(14)	受入		国際歯学コースと連動した1セメスター受入れ型グローバルネットワーク形成国際歯学プログラム	インドネシア 他4ヶ国	6	人
(15)	受入		先端融合科学と平和科目を通じたロシア留学生と広島大学生との交流プログラム	ロシア	8	人
(16)	双方向	派遣	大学の世界展開力強化事業B(国際大学間コンソーシアムINUを活用した, 平和・環境分野における協働教育)	台湾他7ヶ国	9	人
		受入			7	人
(17)	派遣		大学の世界展開力強化事業B(国際大学間コンソーシアムINUを活用した, 平和・環境分野における協働教育)	オーストラリア 台湾	48	人
(18)	派遣		大学の世界展開力強化事業(アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人材教育プログラム)	タイ, インドネシア	25	人
(19)	受入		大学の世界展開力強化事業B(国際大学間コンソーシアムINUを活用した, 平和・環境分野における協働教育)	台湾	15	人
					400	人

## ◆各プログラム概要

### 双方向プログラム

#### (1) 【Exchange Program for Diverse Cultural Studies (日本と世界の文化相互理解のための交換留学)】

本プログラムは、通常の学生交流による分野ごとの海外での専門教育に加え、付加価値として、参加する受入れ・派遣双方の学生全員に(ステップ1) 自国を形成してきた思想、歴史、文化、社会について基礎知識を習得する、(ステップ2) 留学先の国家、社会を形成した思想、文化、歴史、社会について基礎知識を身につける、(ステップ3) 留学の後半に2つの文化に関するそれぞれ現地にいなければ知りえないデータを収集し、比較調査研究を行い、帰国後、習得した知識を対外的に発信する機会を留学前、留学中、留学後を通して提供する。本プログラムを通して、学生は、ただ単に留学先で専門教育を受けるだけでなく、2国間の文化や思想の違いを積極的に学び、比較分析の機会を持つことで異文化理解の難しさ、重要性、双方の社会が将来進むべき指針等について真剣に考える時間を持つ。そうした学習体験を通して、どの分野であっても、将来、異文化の人々と連携し協働作業を通して、共に発展することのできるグローバル人材を育成する。また、本学と協定大学におけるそうした人材にそれぞれのキャンパスで友人や後輩を巻き込んだ留学生との交流活動を積極的に発展してもらい、彼らが留学を通して学んだ異文化理解の重要性と現在の課題等についても考える場を全学的に広げていく。

### 短期派遣

#### (2) 【STARTプログラム：オセアニア】

START : Study Tour Abroad for Realization and Transformation プログラムは、海外留学経験を有しない全学の学部新1年生が、オーストラリアおよびニュージーランドの協定大学において、集中語学研修、正規授業の受講、一人一家庭のホームステイ等を行い、また現地学生とのディスカッション、ワークショップ、英語での最終プレゼンテーションを通じて、グローバル社会において活躍する人材となるためのスタート (START) を切ることを目的とする。

参加学生は、派遣と講義を一体化した教養教育科目「海外フィールドスタディ (2単位)」として海外研修を履修し、出発前3カ月間にわたり10回程度の事前講義と研修を受け、勉強会を行い、帰国後には事後講義を受講する。

#### (3) 【STARTプログラム：台湾】

START : Study Tour Abroad for Realization and Transformation プログラムは、海外留学経験を有しない全学の学部新1年生が、台湾の協定大学：台湾国立政治大学において、中国語集中研修、広島と台湾における人権学習、台湾での現地教員による講義、現地学生とのディスカッションまた学生協同作業としての施設研修を通して、「人権とその国際比較」に関わる講義・体験型学習プログラムを実施し、また現地学生とのディスカッション、ワークショップ、最終プレゼンテーションを通じて、人権発展の視点・異文化理解の重要性・外国語習得の必要性を定着させ、グローバル社会において活躍する人材となるためのスタート (START) を切ることを目的とする。

参加学生は、派遣と講義を一体化した教養教育科目「海外フィールドスタディ (2単位)」として海外研修を履修し、出発前3カ月間にわたり10回程度の事前講義と研修を受け、勉強会を行い、帰国後には事後講義を受講する。

#### (4) 【STARTプログラム：東南アジア】

START (スタート) プログラムは、海外経験が少ない新入生に対して、海外の協定大学を訪問し、日本では受けることのできない、各協定大学特有の授業・体験学習講義やワークショップを受講するとともに、異なる文化や環境を体験し、現地の学生との交流を通じて異文化間コミュニケーションを体感する機会を、大学生活のなるべく早期に提供するプログラムである。

参加学生は、約2カ月間にわたる事前学習を経て、夏季または学年末の長期休暇中約2週間、協定大学において、協定大学での授業受講、体験学習、ホームステイ、現地学生とのディスカッション、相互文化紹介、グループ単位での自主研修を行い、帰国後には事後学習を行う。事前学習では、海外渡航時の危機管理・健康管理、異文化適応、派遣先の大学及び国・地域事情、日本文化・日本事情についてワークショップ、講義、グループ発表、自主学習などを通して学び、事後学習では、ふりかえり(内省)によって現地研修で学んだことを定着させ、次のステップへのアクションプランを考える。

#### (5) 【STARTプログラム：アメリカ】

START (スタート) プログラムは、海外留学・渡航経験の少ない新入生120名を毎年選抜し、約2ヶ月の徹底した事前学修を提供し、その後、北米、オセアニア、アジアの協定大学へ2週間程度派遣し、日本では、決して受けることのできない各協定大学特有の授業・体験学習等を集中的に受講することのできる国際教育プログラムである。そして、アメリカのプログラムでは、新入生でもすでにTOEIC500点以上の語学力を有し、卒業後、英語を使ってそれぞれの分野で活躍することを目指す学生を対象に、単なる語学研修ではなく、アメリカ人学生と寝食を共にし、本プログラムのために開講された特別講義に加え、正規学生と共に一般科目も聴講できる2週間の短期海外集中講座を提供している。そうした留学体験を通して、グローバルに活躍する人材になるために何が必要であるか、自らの実体験を通して学ぶ機会を参加学生に与え、グローバル人材の発掘と養成を目指している。

(6) 【国際協力特定プログラム】

国際舞台で活躍できる優秀な人材の育成を目指し、平成 20 年度から、学部 3 年生を対象に広島大学の到達目標型教育特定プログラムとして開講して来た。派遣前の 3 年次に開発途上国の実情に関して学習させ、次いで実際に夏季休業中の 9 日間程度、現地に赴き、国際協力について理解させ、さらに帰国後、演習を実施する。発展途上国の発展に関わる経済的・技術的・平和的・教育的な現状や問題点について考究する。特に、この現地研修はフィリピンで、環境・教育・平和など、国際協力に関連するさまざまな課題について包括的に学ぶ。協定大学であるフィリピン大学理数科教師センター、公立小学校貧困地区、第二次世界大戦戦跡等を訪問し、国際協力やフィリピンが抱える問題を考える。同時に大学院生も参加させインターンシップとしての経験を積ませる。

(7) 【アジアにおける人権発展学習のための双方向プログラム】

本プログラムでは、日本と台湾という共通の歴史的経験を持つとともに、戦後に異なる発展を遂げてきた両国の将来の世代を担う学生が、共通の基盤に立って人権について学ぶとともに、共同して議論を行うことにより相互理解を推進し、広島大学・国立政治大学間の、ひいては日台間の人的ネットワークの持続的発展を図ることを目的とする。

本プログラムにおいては、本学の学生に対し、人権に関わる講義・演習・体験型学習プログラムを実施する。また同時に、別プログラムにて受入を実施する台湾国立政治大学学生との双方向の交流・ディスカッション（講義・演習・体験型学習の各モジュールを構築）を通じて、本学学生のグローバル人材育成を図る。

(8) 【Dual-Linguistic Education と連動したグローバル人材育成ネットワークプログラム】

広島大学歯学部では平成 24 年度から日本語・英語 Dual-Linguistic Education を実施している。この教育システムと連動した 10 日間程度の歯学特別プログラムを海外の学術交流協定校が提供し、派遣学生がそれを履修することによって、自身の専門分野におけるグローバル対応能力の向上を図ることを目的とする。派遣先は、これまで本学部の Dual-Linguistic Education カリキュラムで学んでいる国際歯学コース学生あるいは短期受入れ学生の母校であるアジアの協定校、および国際交流に関して多くの実績をもつ英国およびカナダの協定校とする。派遣先での経験をもとに、我が国における歯科医学教育・歯科医療と派遣国におけるそれらとの相違を実感させるとともに、異文化への造詣を深めることによって相互理解を促し、急速に進行しつつある歯科医療のグローバル化に対応できる素地を養う。学生の学習成果については、各校の教員が参加する Web learning ネットワークシステムを用いてプログラム前後を含めた期間中、多方向から評価する。

(9) 【バイオデンタル教育研究国際ネットワークプログラム】

広島大学歯学部では全国に先駆け歯学先端研究コースを立ち上げ、既存の歯学科目に加え最先端の生命医学研究の理解に基づく歯科研究・医療を実践できる人材の育成を行っている。また、バイオデンティスト、オーラルマネージャー、オーラルテクニシャンという概念の下、歯学科および口腔健康科学科を跨いでバイオデンタル教育を実施している。本プログラムは、先端歯学研究コースの学生を海外へ派遣し現地での共同研究への参加を通して医療研究の目的から応用まで幅広く理解する能力を育むとともに、大学の垣根を越えた若い研究者のネットワークの基盤形成を目的とする。学生の学習成果については、国際教育担当教員、および研究指導教員の参加する Web learning ネットワークシステムを用いてプログラム前後を含めた期間中、多方向から評価する。

(10) 【国際技術者育成のための日台ものづくり共同学習プログラム】

本プログラムでは広島大学工学部 4 年生を対象に、工学系に強みがある海外協定校の台湾国立中央大学に 2 週間程度派遣し、現地大学での機械系講義、台湾製造業等における設計・製造・研究現場を現地の教職員の指導を得て、実践的にかつ現地学生との英語によるコミュニケーションを深めながら自ら学ぶ機会を提供する。これにより、ものづくり技術者としてのグローバル化の必要性を認識させ、より上位の様々な専門国際化プログラム（アジア諸国への長期海外インターンシップ、海外共同研究等）への参加動機付けを行い、最終的には将来の我が国のものづくりの海外展開を担う国際技術者の育成に資する。

(11) 【国境を超えるエンジニア（ECBO）育成プログラム】

本プログラムでは言語・文化・慣習等の壁を超えて、グローバル化時代の新たな問題を解決することのできる国境を超えるエンジニアの育成を目的としている。その目的達成のため、グローバル化教育・研究水準において、世界的に高く評価されている工学系に強みを持つ海外協定校と密接に連携し、約 1 か月間、学生を協定校の研究現場に派遣して、両校の教員が英語にて、研究指導を実施することにより、国境を超えるエンジニアの育成を行う。さらに、これらの活動を通じて、研究指導の国際化のノウハウを蓄積し、広島大学大学院工学研究科の国際化も同時に推進する。

(12) 【学部学生を対象にした海外実習（生物資源の持続的利用に関する研修）】

本プログラムは、広島大学生物生産学部の主に3年生を対象にした海外研修である。その目的は、海外の農林水産業の実態を見聞し(1)資源の持続的利用及び環境生態系保全のあり方、(2)持続的で安心・安全な生物生産の実態および生物資源の利用、について国際的視野を培い、地球規模で考えるための経験を積み、世界の状況を正しく判断する能力を養うことである。海外における住民参加型の地域振興や資源・環境保全プロジェクトの実施状況を視察し、地域住民、NPO、援助関係者との交流を図りながら、現地の持続的開発、持続的資源利用、生物多様性等について学ぶ。

国際交流協定校であるフィリピン共和国ビサヤ州立大学の他、フィリピン大学ビサヤ校、パナイ島のバナテ湾周辺の4町、現地の資源管理組織(BBBRMCI)、NPO、東南アジア漁業開発センター (Southeast Asian Fisheries Development Center)、セブ市保健衛生所 (Cebu City Government Abattoir) の協力を得て、多方面における学習・研修が実施される。

短期受入

(13) 【法学的アプローチによるヒロシマ・イニシアティブー地球市民と平和ー】

本プログラムは、南米トップレベルの総合研究大学であるサンパウロ大学の学生を対象に、世界最初の被爆地となった広島で、「地球市民と平和」をテーマとして、主に法学的アプローチにより理論的、学際的にこの問題を多角的に検証することにより、将来の世代を担う学生が一地球市民としての責任についてより深い認識を得ることを目的とする(ヒロシマ・イニシアティブ)。

本目的を達成するために、「平和と法」に関する講義・演習を実施するとともに、本プログラムの実施時期を平和式典実施にあわせ、広島ならではの特色としての8月6日の平和記念式典への参加、英語による被爆体験講話を行う。同時に世界遺産である宮島見学、日本文化体験などの体験型学習プログラムも提供し、プログラム全体を通じて、本学学生との交流・ディスカッションの機会を多く設け、相互理解を推進し、両国、両大学の関係の更なる発展を図ることを目的とする。

(14) 【国際歯学コースと連動した1セメスター受入れ型グローバルネットワーク形成国際歯学プログラム】

広島大学歯学部で平成23年度より国際歯学コースを開始し、歯学専門科目を正規プログラム学生と国際歯学コース外国人留学生が日本語・英語 Dual-Linguistic Education でともに学んでいる。本プログラムでは、広島大学歯学部と協定を結んでいる東南アジアの大学を対象として、1セメスターにわたる相手国学生の受け入れを行い、本学学生との Dual-Linguistic Education 科目受講や積極的な交流を促進して将来の歯科医療の均質化の素地を養うとともに、グローバル化に対応し、国際的視野を有したアジア圏の歯科医療従事者を養成することを目的とする。

本学において、日本人歯学部学生とともに歯学専門科目の講義演習を履修するほか、継続的に病院見学を行い、日本と諸外国の歯科医学の違いを実感させるとともに日本の文化にも造詣を深めさせ、将来期待されているグローバルネットワーク形成の基盤を培う。また、バイオデンタル教育の一部体験を通し、母校への発展応用のための基礎とする。

(15) 【先端融合科学と平和科目を通したロシア留学生と広島大学生との交流プログラム】

広島大学と大学間協定を締結しているロシアの大学から留学生を10日間の期間で受け入れ、本学理学研究科附属理学融合教育研究センターが開講する英語科目“Introduction to Integrated Advanced Science (先端融合科学)”を本学部生とともに受講させ、学科、専攻の枠を越えた自然科学の広い分野の最先端の研究の基礎と応用について学習する。講義は英語で行われ、共通の言語となる「英語」を通した学生交流を図る。この講義は、単位相互認定に基づく講義である。また、日本語入門の講義も同時に行い、日本語や文化について理解を深めさせる。さらに、平和記念資料館見学や被爆者の方々との交流を通して、広島大学が現在推進している「平和教育」をロシア留学生にも浸透させる。

【大学の世界展開力強化事業B(国際大学間コンソーシアム INU を活用した、平和・環境分野における協働教育)】

(16) 双方向プログラム

本プログラムは、欧州、米国、アジアにまたがる国際的な大学間コンソーシアムである INU(International Network of Universities)の枠組みを利用して、本学の基本理念と密接な関連性を有する「平和」の分野、また、COEプログラム等の実績を有し地球全体の問題と関連する「環境」分野など、地球市民としての自覚をもって、国や地域の持続的発展に資する人材を育成することを目的とする。

この目的を達成するため、本学の学生を派遣し、また協定大学からの学生を受け入れることにより国際的能力を取得した人材を協定大学と協働で育成する。

(17) 短期派遣

START : Study Tour Abroad for Realization and Transformation プログラムは、海外留学経験を有しない全学の学部新1年生が、オーストラリアの協定大学において、集中語学研修、正規授業の受講、一人一家庭のホームステイ等を行い、また現地学生とのディスカッション、ワークショップ、英語での最終プレゼンテーションを通じて、グローバル社会において活躍する人材となるためのスタート (START) を切ることを目的とする。

参加学生は、派遣と講義を一体化した教養教育科目「海外フィールドスタディ (2単位)」として海外研修を履修し、出発前3カ月間にわたり10回程度の事前講義と研修を受け、勉強会を行い、帰国後には事後講義を受講する。

#### (19) 短期受入

本プログラムでは、日本と台湾という共通の歴史的経験を持つとともに、戦後に異なる発展を遂げてきた両国の将来の世代を担う学生が、共通の基盤に立って人権について学ぶとともに、共同して議論を行うことにより相互理解を推進し、広島大学・国立政治大学間の、ひいては日台間の人的ネットワークの持続的発展を図ることを目的とする。

本プログラムにおいては、台湾国立政治大学学生に対し、人権に関わる講義・演習・体験型学習プログラムを実施する。また同時に、別プログラムにて派遣を実施する本学学生との双方向の交流・ディスカッション（講義・演習・体験型学習の各モジュールを構築）を通じて、本学学生のグローバル人材育成をも目的とする。

【大学の世界展開力強化事業（アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人材教育プログラム）】

#### (18) 短期派遣

本プログラムでは、本学の基本理念「平和を希求する精神」と「地域社会・国際社会との共存」に基づき、本学において強みのある学問分野の教育・研究資源を提供し、アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人材を育成することを目的とする。

本プログラムでは、アジア地域の平和構築のためにアジアの現状を踏まえ、現地のニーズに応える重要な学問分野として(1)食品科学と農学、(2)工学、(3)経済学、(4)言語・文化の4分野で、学士課程における一学期間の学生交流を行う。その特色ある取組として、英語による講義の提供、新たな UCTS (UMAP 単位互換制度) の概念の導入、アジアの経済発展、信頼関係、平和の構築に向けた諸課題に関する「国際課題研究」科目の履修、学生が企画運営する「AIMS-JAPAN 学生セミナー」の開催、留学先/留学後の中長期インターンシップなどが挙げられる。これらにより、グローバル・コンピテンシー（語学力、発信力、交渉力、異文化理解力、リーダーシップ）と、実社会の即戦力となるための能力を鍛える。

## 参 考

双方向協定型（交流協定留学型）				
	H25		H26	
	採択件数	奨学金支援人数	採択件数	奨学金支援人数
派遣プログラム	2（1）	23（7）	2（1）	29（9）
受入プログラム	4（1）	45（9）		31（7）

短期研修・研究型				
	H25		H26	
	採択件数	奨学金支援人数	採択件数	奨学金支援人数
派遣プログラム	4（1）	102（48）	13（2）	296（73）
受入プログラム	4	60（0）	4（1）	44（15）

※双方向協定型、短期研修・研究型とも（ ）内は、重点政策枠\*の数<内数>

※重点政策枠とは、文部科学省が実施する「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」、「グローバル人材育成推進事業」または「大学の世界展開力強化事業」に採択された大学に対して、採択プログラムによる学生交流を推進するため、文部科学省から重点政策枠としての配分されるもの。

本学においては、「大学の世界展開力強化事業」により平成23年及び平成25年にそれぞれ1件のプログラムが採択されている。